

第 6 回奥能登公立 4 病院機能強化検討会 議事録

令和 8 年 8 月 27 日（木）18:00～19:30（於：石川県庁行政庁舎 4 階 庁議室）

1. 開 会

2. 知事あいさつ

【山野知事】

皆さん、こんにちは。開会に先立ちまして、朝からの大雨であります。先ほどレベル 5 の大雨特別警報から、レベル 3 の大雨警報に切り替わりました。ただ、予報を拝見しておりますと、またこの後、大雨になる可能性も高い。明け方にかけて大雨になるという天気予報も見受けられるところでもありますので、引き続きの警戒が必要だと思われます。

そういうこともありまして、今回の強化検討会につきましても、原則オンライン開催として変更させていただきますことをご理解いただければと思います。急な変更ではありますけれども、ぜひご理解いただければと思います。

前回 5 月 7 日の検討会におきまして、新病院の分娩機能、さらには早期の建設を求めるというご意見をいただきました。今年の 1 月に発表しました「大きな方向性」に沿った形で、様々な議論をさせていただいたところではありますが、特に大きな問題となっております産科・分娩につきましても、産科医療、小児科医療に特化した分科会において、母子の安全・安心を第一に、どのような体制をとることができるのか、集中的に議論をし、先月、意見の取りまとめをいただいているところであります。本日はその報告を基に、皆様に議論をさせていただきたいと思っています。

あわせて、私も先に、移動知事室。奥能登地区、中能登地区、移動知事室を行わせていただきました。タウンミーティングや、能登町での若いお母さん方との意見交換でも、様々なご意見もいただいたところでもあります。そんなご意見も勘案し、一定の結論を得ることができればと思っています。

その他にも、今ほど申し上げた産科医療・小児科医療以外にも、様々なご意見もあります。医療従事者の確保策をどうするのか、今後の対応のことについても認識を共有できればと思います。

皆様方には様々なご意見をいただきますよう、お願い申し上げまして、私からの挨拶といたします。ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

3. 議 題

(1) 分科会（産科医療・小児医療）とりまとめについて

（事務局から資料に基づいて説明）

【谷内江座長】

専門家を交えた分科会では、基本的には母子の安全のためには集約化が避けられないわけですが、それと同時に、妊婦や家族の負担を軽減したり、地元で、どうしても近いところで分娩したいという地元の方々の願いをどうにか工夫しながら時間をかけて考え続けるという努力も必要でありますし、今できる工夫と手段というのもきちんと整備していかなければいけないということが分科会でまとめられたことだと思います。また、アンケートや様々なタウンミーティングの形でいろんなステークホルダーの方々に意見を聞くこともできたというのは素晴らしいと思います。その中で、先ほどの説明にありましたように適切なご意見をいただいていたところがございます。ただいまの事務局からのとりまとめについて委員の皆様からご意見お伺いしたいと思います。まずは、各市町の首長の皆様、特に関心事でありますし、住民の方々に対するご説明もあると思いますし、将来の能登のことを考えますと非常に重要なテーマかと思っておりますので、ご意見をお伺いしたいと思います。

まずは輪島市の坂口市長、お願いします。

【輪島市 坂口市長】

輪島市長の坂口でございます。まずは分科会の皆様には、議論を重ねていただきまして、この点をとりまとめたことに対しまして、心から感謝を申し上げます。お話の要約の中にありましたとおり、分娩を考える上でまず母子安全を確保することが何よりも大切という考え方は、私たちも全く同じ思いであります。

そのためには、現時点では、分娩時の安全を確保するためには、分娩に限って医療体制や設備が整った七尾市や金沢市などの病院で行うというワンホスピタル体制を構築することが適当である、ということに対しましては理解をいたしております。しかしながら、病院の間、移動時においての不安とか負担といったものはどうしても住民の方々が感じられることがありますので、こういうことに関しましては、あらゆる支援策を拡充、できるものから速やかに対応していくということが必ず必要だというふうに思っております。病院に行けば安全・安心なのですが、移動時の不安または負担といった部分を少しでも減らせるように今後、努力をしていかなければならないと思っておりますので、自治体としてもこの部分は頑張っていかなければならないと思っておりますので、またご支援をお願い

したいと思っております。

また加えて、新病院の開院まで、また先ほどお話があったとおり、諦めずに産科医をはじめとする医療従事者の確保などの対応策を引き続き検討していただきたいということをまずは約束していただきたいと思います。もちろん、新病院のことに限らず奥能登の創造的復興を進めていくためには、あらゆる方面で検討、そして自治体、市町との連携が不可欠でありますので、今後ともこのことに限らず、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

【谷内江座長】

ありがとうございました。

それでは次に珠洲市の泉谷市長、お願いします。

【珠洲市 泉谷市長】

珠洲市の泉谷でございます。どうぞよろしくお願いをいたします。今ほどの説明ですと、分科会ですとか、あるいはタウンミーティング等々で出された意見を取りまとめたということであって、結論は何も示されていないと感じております。様々な意見があったと思いますが、これから奥能登2市2町、これだけの震災また豪雨災害、そこからの復興に向けて分娩が可能な新病院の整備というのが、大きな希望であります。ぜひともその希望に答えていただけるような結論を出していただきたいと思っております。そのためにも、分娩が可能な産婦人科の設置といいますか、これはハード面での対応をぜひともお願いしたい。そしてまた、様々な可能性を今後とも探り続けていただきたい。何とかこの新病院の開院までには分娩が可能になる、そういった形で進めていただきたいと強く要望をいたします。

【谷内江座長】

ありがとうございました。

それでは穴水町の吉村町長、お願いします。

【穴水町 吉村町長】

穴水町、吉村でございます。まず分科会のとりまとめ、本当にご尽力いただいたこと、皆様に御礼を申し上げます。専門的な議論をしていただいた上でのとりまとめということで、基本的には尊重したいと考えております。しかしながら、先ほど泉谷市長も言われたとおり、これが最終結論というか、あくまでも経過措置だというふうな認識でおります。8ページ目の中ほどにあります、住民の地元で分娩したいとの願いに応える努力が必要であるということ、それからその次の、様々な可能性を探り続けていく必要がある。それは今

からでもそうですし、数年後に開院を迎えてからも、引き続きこの努力をしていただきたいと思いますと考えております。

【谷内江座長】

ありがとうございました。

それでは能登町の吉田町長、お願いします。

【能登町 吉田町長】

吉田です、こんばんは。奥能登の1自治体の首長として、新病院に分娩機能を持たせていただきたいという気持ちは変えることはできません、諦めることはできません。

そして産婦人科、そして小児科を充実させていただきたいというのは、率直な思いであります。開院までには、6年、7年かかると言われております。その間に人材育成なども進めていただき、何とか奥能登の新病院に分娩機能を持った新病院、そして産婦人科、小児科といったものを揃えた奥能登に住む住民としては安心してすぐに行けるような、そうした病院の整備を進めていただきたいと思います。

【谷内江座長】

ありがとうございました。

それでは公立4病院の立場から、それぞれの病院長の先生方にお聞かせいただきたいと思います。

まず市立輪島病院の田中病院長、お願いします。

【市立輪島病院 田中病院長】

市立輪島病院の田中です。よろしくお願いします。現状では、安心・安全な周産期医療を行うためには、やはり妊婦健診などは奥能登で、出産は七尾、金沢というワンホスピタル体制はやむを得ないと思います。ただ、特に、七尾市における分娩の体制は本当に維持していただきたい。さらにできれば充実させていただきたいと思います。七尾と金沢の距離というのはかなり違いますので、まず七尾をしっかりと分娩ができるようにはしていただきたい、このまま継続していただきたいと思います。

あと当院としましては、今後も産婦人科の外来は週2回継続して妊婦さんには安心を提供していきたいと思っておりますし、また妊婦の救急搬送に関して、9月に輪島市において、救命救急士を対象とした石川県救命救急研究会が開催されます。そこで石川県立中央病院の産婦人科・佐々木先生に、産科の救急搬送に関する講演をお願いしてあります。講演を通して救命救急士のレベルアップも図っていききたいと思っております。

あと、新病院に関して、産婦人科のハード面の整備をお願いしたいです。それと妊娠中、妊婦さんの安心ケアのためには、やはり常勤産婦人科医師、少なくとも1名は新病院に派遣していただきたいと思います。1年間ずっといてくださいとは言いませんので、数ヶ月単位の交代でも構いませんので、1名の産婦人科の派遣はぜひお願いしたいと思います。

【谷内江座長】

ありがとうございました。

それでは珠洲市総合病院の浜田病院長、お願いします。

【珠洲市総合病院 浜田病院長】

珠洲市総合病院の浜田です。ワンホスピタル構想については地域でお産ができない現状では非常に素晴らしい考え方だと思います。新病院ができるまで、できてからではなく、今からでも運用を一部からでもいいですから、どんどん進めていけたらと思います。

お産・分娩に関しては、それに限らず地域の患者さんが七尾・金沢に行かれて受診されるということは、他の科でもいくらでもあったことで、地域で治療できることを、我々がするために存在するので、お産の場合も、向こうに行きうまくいった方々がそれに満足されているというのは、そのとおりだと思いますが、こちらの地域でお産をしたいという方に応えるための体制はぜひとも作っていけたらと思います。今ハード面の話が出ましたが、とにかく分娩をするハード、スペースなど、設備のところは、いくら人が揃ってもできないので、せめてまずは設計段階からお産ができる可能性のある作りをしていただきたいと思いますし、そのところを大切にしていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

【谷内江座長】

ありがとうございました。

それでは穴水総合病院の島中病院長、お願いします。

【公立穴水総合病院 島中病院長】

輪島病院の院長先生とほとんど同じ意見です。我々も水曜日に妊婦健診を行っておりますので、これを維持したいと考えておりますし、分娩は本当に私の方では必要だとは思いますが、ただ、奥能登に志があって、意欲のある産婦人科の先生を呼び込もうとした場合、やはり今の分娩の数ではなかなか困難極まりない。各市町にお願いしたいのは、若い人たちを医療だけではなく、他の面でも呼び込む。少なくとも年間150例ないと、医者はなか

なか意欲を持って働けないと思います。そういうこともお考えになって住民の教育とか、あるいはそれぞれの環境を整えていただければ嬉しく思います。

【谷内江座長】

ありがとうございました。

それでは宇出津総合病院の野島病院長、お願いします。

【公立宇出津総合病院 野島病院長】

皆様と一緒にですが、ワンホスピタル体制というのはいい方向だと思っております。全部一緒にですが、箱物というのですか、新しい病院はハード面ではきちんと整備していただきたいという思いがあります。

あともう一つ、少し離れますが、このような議論がそのまま外科医療など他の医療にも波及して、数が少ないから、やらないなどの議論にはなってほしくないと思いますので、できるものはどんどん外科の手術など、そういうものは今後していけるような話し合いにしてほしいと希望しております。

【谷内江座長】

ありがとうございました。

それでは、病院長の先生方、安全な産科医療の観点からどうぞご意見をお伺いしたいと思いますが、まずは金沢医科大学病院の大黒病院長お願いします。

【金沢医科大学病院 大黒病院長】

ありがとうございます。こちらは皆様のご要望が決まりましたら、対応できるようにはしておりますので、この会議などで決まった内容に応じて動きたいと思いますので、よろしく願いいたします。

【谷内江座長】

心強いお言葉ありがとうございました。よろしくお願いします。

県立中央病院の岡田先生、入っていますでしょうか。

【県立中央病院 岡田病院長】

まず、能登のコーディネーターとしては、今回の専門のご意見、承りましたということで大変ありがとうございましたということですが、石川県立中央病院の院長としましては、今も能登の方に産科の先生に行っていただいていますけれども、引き続きできること

をやらせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【谷内江座長】

先生、ありがとうございました。

それでは隣接する能登中部の医療圏の立場から、まず公立能登総合病院の吉村先生、お願いできますか。

【公立能登総合病院 吉村事業管理者】

移動知事室や住民のアンケート調査などで市民の声が初めて聞かれたという意味、非常に嬉しく思いました。その中で、妊婦さんの求める安全ということが、輪島の事故を含めて、大事だということも分かりました。私は安全と安心という言葉は意味が違うと思っています。安心は住民の気持ちですが、安全というのは医療関係者が分娩を安全に成し遂げるという意味だと私は思っていて、100人ぐらいの分娩があるとすると、3～4日に1回ぐらいの分娩になります。2交代制の助産師さんが勤務すると30日で60回の勤務、その中でたった1回か多くても2回しか子どもを取り上げることができないということが続きますと、どんどん技術的なものが、助産師さんは特にそうですが、低下していきます。

輪島の胎盤早期剥離の事故のときも、超音波をもしきちんとしてくれる助産師さんがいますと、胎盤の早期剥離というのは、ある程度事前にわかるのではないかと私は思っていて、こういう技術が低下してしまうと、また同じようなことを起こしかねない。やはり分娩数がある程度ないと、技術の維持が難しいと思っています。

新病院では産婦人科の先生が外来をされるということであれば、妊婦健診はきちんとしてきますし、七尾、金沢に分娩のときだけ、1週間だけ移動するといったことは決して地域で育児ができないということに繋がらないと私は思っていますので、現行の事前宿泊制度を利用したやり方が一番妥当ではないかと思っています。

【谷内江座長】

ありがとうございました。

それでは恵寿総合病院の神野理事長、お願いします。

【恵寿総合病院 神野理事長】

ありがとうございます。非常に先ほど来、七尾と金沢の病院に対しての分娩のバックアップということの期待感というものもいただいたわけであります。七尾の公立能登総合病院と恵寿総合病院との間で、今後分娩をどうしていくのかということはまた話し合っていく必要があると思っています。と申しますのは、七尾も人口は非常に減少しているとい

うことと、少子化が進み高齢化率が高くなっているということで、おそらくこの能登北部の話の次には能登中部のいろんな提供体制をどうするのかということに繋がっていくのかなと思います。

今、集約化と均てん化ということで、地域住民の方々にとっては均てん化してなんでもできるようにするのがいいと思いますし、それから集約化に関しましては先ほど来お話があったように、症例数とか医師の技術とか、そういったことが重要だと思います。問題は今後、先ほど野島先生も少しおっしゃいましたけど、いろんな他の科のことも含めてこの集約化すべき疾患状態と、均てん化すべき疾患状態といったことをきちんと分けて議論することが必要だと思います。

そういった意味では、残念ながらお産に関しては集約化なのかなと思います。均てん化に関しましては、非常によくある疾患、また急を要する疾患に関しては均てん化して、奥能登の4病院、それからその後の病院ということでできるようにしておくことが必要だと思います。今後、先ほど能登総合病院の方からもお話がありましたけれども、やはり我々は新しい技術といいますか、オンラインなどいろいろな遠隔というものをもっともっと使う必要があるのではないのか。そういった意味では、助産師さんが実際に超音波を当てて、そして遠方の産婦人科医がそれを見るとか、いろんな遠隔医療というのを駆使するということが必要だと強く思います。そういう意味で、非常に強いブロードバンドも奥能登には必要だと思っております。

【谷内江座長】

神野先生、コンパクトにまとめていただきましてありがとうございます。先ほど、田中先生も言われたように、特に中能登での産科、分娩機能をきちんと質の高い形で維持することが大事だということはこのプランの肝要な部分かなと思います。皆様から、それぞれのお立場から貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。

今、スタートの時点であれ、今の時点で奥能登で分娩そのものをできる体制を作るのは非常に困難かもしれないですし、その安全を担保しながらも、ハード面をきちんと整備して数年かかる間にいろいろな工夫で仕組みを整えながら、あるいは将来分娩ができるような、分娩が必要となるような医療以外の観点からの環境の変化も受け止めることができるような努力は必要だということも皆さんからお聞きしたような感じがします。このような形で分科会、産科医療・小児医療のとりまとめの内容について皆様から一定の合意をいただけたと思いますので、この内容を検討会の方針とさせていただきたいと思います。微修正が必要な場合は私の方で内容を調整させていただきたいと思っております。よろしいでしょうか。

今の時点で、スタートの時点で分娩をやらないといけないことになってしまうと、スタ

ートできないことになってしまいます。ただこの数年の間の、これは医療の面だけではなく、経済であるとか、教育であるとか、いろいろな子育て環境を、同時に子どもが増える子育てがしやすい環境に進めることにより、分娩がなければいけないという環境が整備されれば、それはそういう形でスタートできるようになるかもしれないですが、そのためにはハード面をきちんと整備しておかないと、それは基本構想の中に入れることになると思います。ただ、今の時点で、何人かのチームをお約束してスタートしないとできないということになると、もうスタートそのものができないということになりますので、それはどんどん遅れてしまうことになりますので、その間、私たちがどういう努力をして、どういう工夫を、今、神野先生が言われたようなオンライン、DXを使った様々な工夫も、今、私たちが思いもつかないような工夫も出てきていますので、助産師さんの力をいかにして使いこなすかなど、いろんな工夫が可能だと思います。

それを使いこなしながら、まずは、私自身も田舎に生まれたので、そこで分娩ができればいいに決まっています。それはよく分かりますが、私は小児科医であり、産科・分娩も、前もお話をしましたが、ずっと見てきましたけども、やはり一昔前だったら、200人のうち1人が亡くなってもみんなしょうがないといった時代があるのですが、今は絶対それは許されない時代です。ですから、まずは安全を担保しながら、そうは言っても、将来いろんな環境が整えば、分娩が可能であるようなことを諦めることなく、いろいろな工夫を重ねるということ。そういう意味では合意をいただけるのではないかと思います、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

【珠洲市 泉谷市長】

よろしいですか。確認でございますけれども、新病院の整備に向けては、分娩が可能な産婦人科の設置をする。そして開院までには、様々な可能性を探り、また様々な工夫をし、何とか分娩が可能な環境整備に向けて進めていくということで理解してよろしいですか。

【谷内江座長】

環境整備について努力するという部分は正しいと思っています。分娩可能な産婦人科の体制を整備すると書き込むことは、今の時点では医療の安全性の観点から、それはやっではないことだと私自身は思います。それに向けて努力するということは大事です。よろしいですか。

【珠洲市 泉谷市長】

ハード的には可能な産婦人科を設置するという事は間違いないですか。

【谷内江座長】

ハードは分娩室を整備するということです。ですから、将来環境を整えばそれを使う。それがなければもう絶対にできないわけですから、それを整備しておくということを理解いただければ。

【珠洲市 泉谷市長】

いずれにいたしましても、分娩が可能になるように今後も引き続き様々な工夫、そしてまた努力をお願いしたいと思います。

【谷内江座長】

それは医療だけの努力でないということを先ほど島中先生がおっしゃいましたように、それはもうぜひ認めていただきたいと思います。

それでは山野知事からよろしくお願いします。

【山野知事】

ありがとうございました。分科会でいろんなご議論、専門家の先生方や、また行政を預かる副市長、副町長も含めて、いろいろご議論をいただきました。

また、タウンミーティングにおきましては、4人の市長、町長、そして地元の県議会議員の方もご出席をさせていただいた中で、いろんなご意見をさせていただきました。

また、吉田町長のお計らいで、能登町の移動知事室のときには、あえて若いお母さん、お父さんも何人かいらっしゃいました。若いお母さんお父さん、まず子育て真っ最中、もしくは今妊娠中の方も含めた方たちとの意見交換という場も作っていただきました。様々なご意見もいただきました。

また、個人的にもいろいろな方と、メールも来ましたし、お会いもしましたし、その若い、これから結婚する、結婚を控えている方たちの、比較的若いお父さんお母さんとも、いろんな意見交換もさせていただきました。

何と言っても命。特に、母子の命が一番だということを考えた場合、やはり専門家の先生方のご意見は、私は最も大切にしていかなければいけないんだというふうに思っています。

赤ちゃん協議会のことも、分科会の中でもまとめていただいています。赤ちゃん協議会におきましても、複数の医療関係者、産科の先生が必要だということもまとめていただきましたし、それは安全を第一にしてのことだと理解をしているところでもあります。

なかなか今の状態で、奥能登におきまして、分娩というものはなかなか課題が多いとい

うこともありますので、まずはワンホスピタル体制の構築を目指すこととしていきたいと思っています。

ただ一方で、これもやはり分科会でもありますように、いろんな、例えば救急搬送体制の充実やドクターカー。神野先生もおっしゃっていただきました、いろんな良い意味での医療 DX の活用、安心感を与えていくというものを、これは新病院の開院を待つまでもなく、できることから速やかにやっていくということが必要になってくると思いますし、そのことが地元の皆さんの期待に応えていく、寄り添っていくことにもなっていくとも思っています。

そんな観点からいきましても、奥能登での分娩実施の環境整備に向けて、様々な可能性を探り続けていくということも大切になってくると思っています。

その一つが、ここにも書いてくれていますけれども、私も全国知事会でも申し上げました、産婦人科・小児科の先生方が少ない、この診療の偏在ということ、ここを医療に関わる方を育てていく段階から、国の方でそこはぜひ工夫をしてほしい。この 47 都道府県、多くの知事さんも賛同をしていただいたところでもあります。少し時間はかかるかもしれませんが。

また、金沢大学、金沢医科大学も石川県にもあります。県立病院にも力を貸していただいています。先生方のご理解もいただきながら、ご協力もいただきながら、今お話があったように、この間、新病院には、分娩室を設けて、その環境整備に向けた努力をし続けていく。

そして、今後体制が整った場合などに備えて、分娩室を新病院には設けることとしていかなければいけないと思っていますし、そうしていきたいと思っています。

いろいろな意見交換をしていく中で、若い特にお母さん方、何人かの方がワンホスピタル体制に対してご理解をいただきながらも、話の節々で私を感じたのは、やはりやむを得ずということであると思っています。

ですので、その方たちがやはり安心できる環境を作っていく。それは経済的な意味においてもそうですし、医療的な意味においてもそうですし、もう一つ言えば、もう既に兄弟がいる第 2 子・第 3 子を出産される方もいらっしゃると思いますので、既に生まれている第 1 子・第 2 子やご家族も安心できる体制というものも、これから少しまだ時間もありますので、時間もあると言いながらも、すぐでもできることからしっかりやっていかなければいけませんので、そのようなことも踏まえた体制をしっかりとっていくことが必要だと思っています。

基本、繰り返しになりますけれども、まずはワンホスピタル体制の構築を目指すこととしていきたい。そして、これから、そうは言いながらも、分娩の体制をずっと探り続けていく努力を続けていかなければいけない。そして、そのときに、体制が整った場合に備え

て、新病院に分娩室を設ける。これを一つの結論として、検討会の結論としてご理解をいただければと思っています。

(2) 分科会（コンセプト、救急医療、医療DX）の検討状況について

（事務局から資料に基づいて説明）

【谷内江座長】

皆様から何かご質問ありますでしょうか。

【恵寿総合病院 神野理事長】

次の後でもよろしいかと思いましたが、せっかく今日は奥能登の4つの市町の責任者の方もしらっしゃいますので、一言だけ申し上げさせていただきます。

統合病院の話が進んでいるわけではありますが、おそらく全国のどこの病院を見ても、誰もいないところに病院ができるというのは、老人病院とか精神科単独病院以外はまずないわけです。そのような意味で、もしこれから統合病院を進めるとするならば、その間にあの統合病院の周り、能登空港の周りに新しい若者が来ることができるような町、まさにそれこそが復興になるのではないのかと思います。東京から1時間です。そのようなことを考えれば、あそこに新しい産業ゾーンを作るというのと、統合病院を一緒にすることにより、若者が増える、お産の件数も増えるかもしれないですし、それからいろんな急性期の医療機能というのも必要になってくるところと思います。

ですので、今まであった4つの市町の延長線上で話をすると同時に、それだけではなく、統合病院の周りにいろいろな産業基盤を作るというような考え方は、私、医療人がこのようなことを言うのは大変恐縮なのですが、そうすることにより統合病院を作るなら、そこが生きてくるのではないのかと強く思うところであります。少し意見を述べさせていただきました。

【谷内江座長】

神野先生、ありがとうございます。私もその考えに賛同します。

おそらく医療で完結できないような、奥能登の未来を担うような仕組みが複合的に必要なのではないかと思います。ここはディテールを議論するような場ではありませんので、皆さんに聞いていただいただけで私も満足です。ありがとうございます。

(3) 医療従事者の確保策について

(事務局から資料に基づいて説明)

【谷内江座長】

医療従事者の確保、人材確保は非常に重要な観点かと思えますし、様々な工夫が必要かと思えます。と同時に私は大学の人間ですので、新しい看護師、若い看護師、若い医師や若い薬剤師が人材育成の場としてもこの新しい病院が機能する可能性も見ておりますので、そういう観点、人材育成という観点と、人材確保という両方の観点が必要かなとお聞きしていました。この点非常に重要な点でございますので、関係者の方々に少しご意見をお伺いしたいと思えます。

まず石川県医師会の安田会長、お願いできますでしょうか。

【石川県医師会 安田会長】

石川県医師会の安田でございます。医療従事者の育成、確保というのは、日本全国同じ課題でありまして、厚労省も7月に2つの検討会を立ち上げて、色々協議しています。例えば研修の修学資金の貸与制度を今もやっていますが、震災前は、貸与を受けていた方が義務年限終了後も6、7割は残っていました。今は全然残っていないという数字も上がっています。一番確実なのは、今働いている人に残ってもらうことだと思います。ですから、この左の方にありましたが、再編統合に対する理解を現病院職員に理解していただくという方向が一番確実だと思います。こちらに重点を置く方がいいのではないかと。やはり看護大学を卒業された方々は、まず現場でスキルを伸ばしたい、経験を積みたいという思いがあるので、残ることは難しいかと思えます。やはり今残って病院に勤務している方々に残ってもらう方策を考えることが一番確実ではないかと思っております。

【谷内江座長】

安田会長、ありがとうございました。

それでは石川県歯科医師会・飯利会長、お願いします。

【石川県歯科医師会 飯利会長】

いつもありがとうございます。歯科医師会としては、歯科医師の減少も今全国的に顕著になってきていると同時に、高年齢の先生方が廃院をしていくということも、現状見られています。我々としては、医療従事者の確保といった見地から見ますと、歯科衛生士を奥

能登地区へしっかりと確保していきたいということを常に考えております。能登半島地震、奥能登豪雨以来、既婚者の歯科衛生士たちはご主人のお仕事とともに金沢市や県外へ出られる方が非常に多く見られます。奥能登地区には歯科衛生士がものすごく激減しておりますので、ぜひともそれを戻したいということで、我々は来年から同じように修学資金の貸与制度を独自で始めようと思っておりますし、今後これは定着すれば県にもいろいろと協力していただきたいと思っております。歯科医師の養成は石川県には大学がございませんので、他県から歯科医師に関しては供給しなければならないということもありますので、今後の課題だと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【谷内江座長】

飯利会長、ありがとうございました。

それでは薬剤師会の中森会長、お願いします。

【石川県薬剤師会 中森会長】

中森です、ありがとうございます。まず分娩の話がありましたが、世界の過疎地域はどんなのかと思い、少し調べてみました。グリーンランド地区、イヌイット地区、あと国後、択捉を調べました。一つ分かったのは、能登と金沢、七尾は世界から見ると、ものすごく近いエリアだということです。世界でさらにすごいことを行っていました。分娩はリスク選別型ネットワークを組んでいました。国後、択捉はサハリンまで患者を移送しているそうです。これらに比べたら能登と金沢はすごく近いエリアだと思います。

薬剤師偏在問題に関しては地域連携薬剤師共育プログラムを石川県薬剤師会と金沢大学の崔先生とで今動かしています。現実的に今2名の薬剤師が実際に動いております。今後新しく薬剤師が増えているというふうにも聞いております。とても現実的な話だと思います。

しかし、これは5年10年後先に考えた場合、それは持続可能なのかというと、不安な要素もあります。そこで、この前にも申しましたが、テクノロジーを導入して、薬剤師のオペレーティングそのものを変えてしまえばいいのではないかというのが、我々石川県薬剤師会の考えであります。神野先生が4病院をバーチャルな一つの病院と前回おっしゃられましたが、これは素晴らしい考えだと思います。私は今の4病院をバーチャルな病院にするとともに、その地域にある全ての薬局も組み入れていただけないかと思います。様々なマスターや採用薬、フォーミュラリーを策定して、もう一つの全体の能登の医療として、みんなで支えていけばいいのではないかと考えております。

また新病院の具体的なDXに関しては、ロボット調剤を導入していただきたいと考えます。これは人を減らすための道具ではなくて、薬剤師を対物業務から解放して、処方チェ

ック、ポリファーマシー、退院支援、いろんな様々な業務を複雑に担わせる、そういう目的として、ロボットを導入すればいいかと思います。

実際、金沢大学の崔先生とよく話しておりますが、全自動薬袋作成、散剤監査、注射薬ピッキング、自動搬送ロボット、これは既に金沢大学で導入されていまして、省力化によって薬剤師が監査や処方チェックにかなり集中できるということを実現しています。世界で見ても、シンガポール、NUH でトレーサビリティ、RFID、ワークフローエンジン等を導入して、かなり最先端の医療を実現しています。能登の新病院を日本の過疎地域の最新モデルにして、生まれ変わることを提示して、我々能登の人たちが、逆に誇りを持てるような、そういう病院にしていいただければと思っております。

【谷内江座長】

ありがとうございました。

それでは続いて看護協会の小林会長、お願いします。

【石川県看護協会 小林会長】

ありがとうございます。看護協会の小林でございます。先ほど安田医師会長も言われましたけれども、今働いてらっしゃる方をいかに定着して、支援いただくかというところで、またそういった対策も必要だと改めて感じております。また、こちらの資料にも書かれているこれまでの修学資金貸与制度の活用に加えまして、今年度から県立看護大の学生を対象としたキャリア形成プログラムとして、新たな修学資金貸与制度が始まっていますが、説明会をしてどのくらい手挙げがあったのか私は把握していないのですが、これまでの修学資金もだんだんと手挙げをする学生も減ってきている。そもそも若い人が減っている中で、看護を目指す人たちも減ってきている。専門学校に入学する人たちも減ってきている現状の中、看護師の確保はなかなか厳しい現状であると思っております。

地域偏在という問題もありますし、今後はむしろ金沢等の看護人材がある程度充足しているところからの派遣制度や、人事交流といった、看護人材を広域的に確保・配置・活用できる体制整備を検討していく必要があるのではないかなと感じております。

【谷内江座長】

ありがとうございました。その他、今の医療従事者の確保策について何かご意見、ご発言ありますでしょうか。

【珠洲市 泉谷市長】

また分娩のことに戻って申し訳ないのですが、何とかこの新病院で分娩ができるように

様々な工夫をしていく、様々な可能性を探り続けていくということでした。

なかなかやっぱり難しいというのは、石川県において、日本全体もそうだと思いますが、そもそも産科の先生が少ない。新たに産科の先生になるという思いの方も少ないといえますか、増えないといったところにも課題があると思います。金沢大学における地域枠において、産科の先生を目指すようなそういう誘導というわけではないですが、そういったことができないのかということが一つ。そしてあと先ほど来、今いらっしゃる方々、特に奥能登の公立4病院の看護師含めて、その方々がそのまま新病院でよいということ考えたときに、やはり冬の凍結、あるいは距離の問題もありますので、病院のところに寝泊まりできる宿舎また住宅といったことも、構想の中に加えていく必要があるのではないかという思いがあります。この2点についてまたご検討いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

【谷内江座長】

ありがとうございます。医療従事者の観点から泉谷市長からご発言だったと思います。本当に助産師さんを含めて産科医療に関わる方が増えることは重要だと思います。やりたいと思うような環境整備、私たちの方からも検討しないといけないと思い、お聞きしました。ありがとうございます。

(4) 今後の対応について

(事務局から資料に基づいて説明)

【谷内江座長】

本年度内のスケジュール案でございます。非常にタイトに会議が開催されることが予定されます。特に部門分科会に関しては、毎月必ず開催しながら、4病院機能強化検討会を開催する。それから若手の職員によるミライ会議。そして住民あるいは病院職員の説明などをこなしていかないといけない中で、基本構想を今年度中に作成していくというスケジュールであります。何かご意見ご発言ありますでしょうか。

ぜひご協力していただいて一つの方向を向いて、将来の良い実現のために努力させていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

- (5) 一部事務組合設立協議会の設置について
- (6) 基本構想策定支援業務委託事業者の決定について

(事務局から資料に基づいて説明)

【谷内江座長】

委員の皆様から何かご発言ご質問ありますでしょうか。

【珠洲市 泉谷市長】

前々から申し上げておりますけれども、できるだけこの新病院の整備を早く進めてほしい。できるだけ早くこの開院までこぎつけてほしいという思いがございます。その中でこの基本構想については今年度中ということになろうかと思いますが、それであれば今ほどこの分娩についても、大体ほぼ結論が得られたということからいたしますと、この基本設計の方、新病院そのものの建物のイメージといいますか、そういったことについて、令和9年度、来年度早々に、設計にかかれるのかどうなのか。そこを早く持っていくことができれば、全体のスケジュールを圧縮することができると思います。そんな中でこの基本構想を委託するこの事業者において、そういったこの設計のイメージまで請け負うのかどうか。それとは別ということであれば、来年度早々に基本設計を進めていくということを考えていただきたいと思いますと思いますが、この点につきましてはいかがでしょうか。

【谷内江座長】

原さんの方からご発言されますか。

【事務局 原参事】

今回、統合して新しい病院を作り、そしてサテライトも整備していく、という非常に複雑な検討事項の多い話として、構想はそれなりに時間がかかりますし、しっかりと組み立てなければいけないと思っております。その上でスケジュールを早くというご要望は以前からいただいておりますので、今後こういった形で短縮ができるのか、そこはこれからまた真剣に考えさせていただきたいと思っております。今日のところはちょっとこれ以上踏み込んだ説明はできませんけれども、何卒よろしくお願いします。

【珠洲市 泉谷市長】

すみません、知事の思いとして、基本設計を早く進めていくということをご明言いただ

ければありがたいと思いますが。

【山野知事】

少しでもスケジュールを早くしたいということで、今年の1月の「大きな方向性」のときには、この「分娩のことは基本構想の中で」というふうに入っており、それをやると10年かかると直感的に思いましたので、やはり専門家の先生の思いをお伝えいただきながら、基本構想の前にとということで、一定の方向性が出ました。

そうすることによって、基本構想はまさにこの中で議論をしていきますので、当初よりは何としても早くできるのではないかと考えておりますので、今、「何年でできます」や「何か月でできます」というお約束はできませんけれども、事務方としっかり連携をしながら、少しでも早くできるようにしていきたいと思います。

【珠洲市 泉谷市長】

基本設計については。

【山野知事】

基本構想が固まらないと。基本的に基本構想はこの中でまとめていくことになると思いますので、基本構想がまとまりますと、基本設計というものは、比較的に速やかにいけるんではないかなというふうに思います。

ただ、難しいのは、サテライトをきちんと残していく、そのサテライトの医療人材の確保ということをきちんと考えていかなければいけないですので、そのことをあわせて行っていくので、少し課題はあるかとは思っています。

何としても、できるだけ早くに、安心できる環境を整えていきたいと思います。

【谷内江座長】

非常にタイトなスケジュールですので、皆さん頑張って、ご協力お願いします。それではここで基本構想の策定支援業務を委託しました、EY 新日本有限責任監査法人さんから一言ご挨拶をいただければありがたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

【EY 新日本有限責任監査法人】

本日はこのような貴重な機会をいただきまして誠にありがとうございます。EY 新日本有限責任監査法人でヘルスケアの責任者をしております根本と申します。よろしくお願いいたします。この度、基本構想策定業務を委託いただくことになりまして、私どもとしても大変光栄に感じております。

今回の基本構想は、単に一つの医療施設の将来像を描くということだけではなく、これからの皆様の地区の地域医療をどのように考えていくのか、そして地域の皆様にどのような医療を提供していくのかを考える非常に重要な取組だと我々も認識しております。それにつきましては、皆様の議論に資するとりまとめ、データ提出をさせていただきたいと思いますので、ぜひ EY 新日本のメンバーから皆様、病院様の一部には、データのご提出のご協力などもお願いさせていただくことになろうと思いますが、何卒ご協力をお願いいたします。私ども責任を持ってやり遂げたいと思いますので、これからよろしく願いいたします。

【谷内江座長】

どうぞよろしくお願いいたします。その他全体を通じてご意見、ご発言ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

長時間にわたりましてご議論いただきましてありがとうございます。本日の議論はそれではここまでとさせていただきます。議論のうち、産科・分娩については皆様から一定の合意をいただくことができたと思います。また、その他の医療従事者の確保の問題、今後の対応などについても皆様と認識を共有することができたと思いますので、事務局におかれましては新病院の基本構想の策定や一部事務組合の設立に向けた作業を始めていただきたいと思います。

また各市町、病院におかれましても、必要な対応を可能なものから始めていただくようお願いしたいと思います。その上で、今年度中に策定を予定している基本構想の進捗状況や諸課題について議論を行うために、適切な時期に、未定ではございますけども、次回の検討会を開催させていただきたいと思います。それでは本日の検討会の総括を山野知事よりいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【山野知事】

はい、ありがとうございます。いろいろとご議論をいただき、スケジュールのこともご議論をいただきました。分娩のことにつきましては、分科会で産科・小児科に特化した形でご議論をいただきました。今日も市長、町長、それで分科会では、副市長、副町長も入っていただきまして、一定のご理解をいただいたと思っています。

これからは基本構想に入っていきます。泉谷市長もおっしゃっておられましたように、スピード感を持ってやっていくということが大切になってきます。一部事務組合の設立についてもご理解をいただいたと思っています。これからしっかりやっていかなくてはいけないと思っています。

一番の課題は、今日も議論が出ました、やはり医療人材の確保という表現になるのでし

ようか、医療人材の皆さんにご協力をいただくこと。新病院だけでなく、4つのサテライトの病院においても医療人材が大切になってきますので、ここは、今いる医療関係者には、病院長を始め、事務方も含めて、丁寧に説明をしてご理解をいただいていくということ。そして、地域の、先ほど神野先生も、地域があつての医療だというふうにおっしゃいました。僕もそのとおりだというふうに思っています。ということは、今現在も、4つの、これからサテライトになっていきますが、この地域の方たちのご理解も大切になってきます。

ここはやはり4人の市長、町長がリーダーシップをとってご説明を、まちづくりのあり方も含めてご説明をいただきたいと思いますし、一部事務組合で石川県も関わりますので、必要であれば、私もいつでも参加させていただきまして、地域の皆さんにご理解をいただくように説明をしていきながら、取り組んでいかなければいけない。そのことによって、奥能登の、医療を含めたまちに対する思い・信頼というものに繋がっていくための努力をしていかなければいけない。そんな思いも改めて強くさせていただきました。

いろんな、長い時間にわたりましたけれども、今日も長い時間ご議論をいただきました。皆さんの思いをしっかり受け止めて、取り組んでまいります。ありがとうございました。

4. 閉 会